

1. 対象部材

屋外用よこ引きストレーナーキャップ
 (排水溜め部あり)

略称：CjK ストレーナーキャップ

2. 標準(共通)化の部位

標準(共通)化の部位を図1に示す。

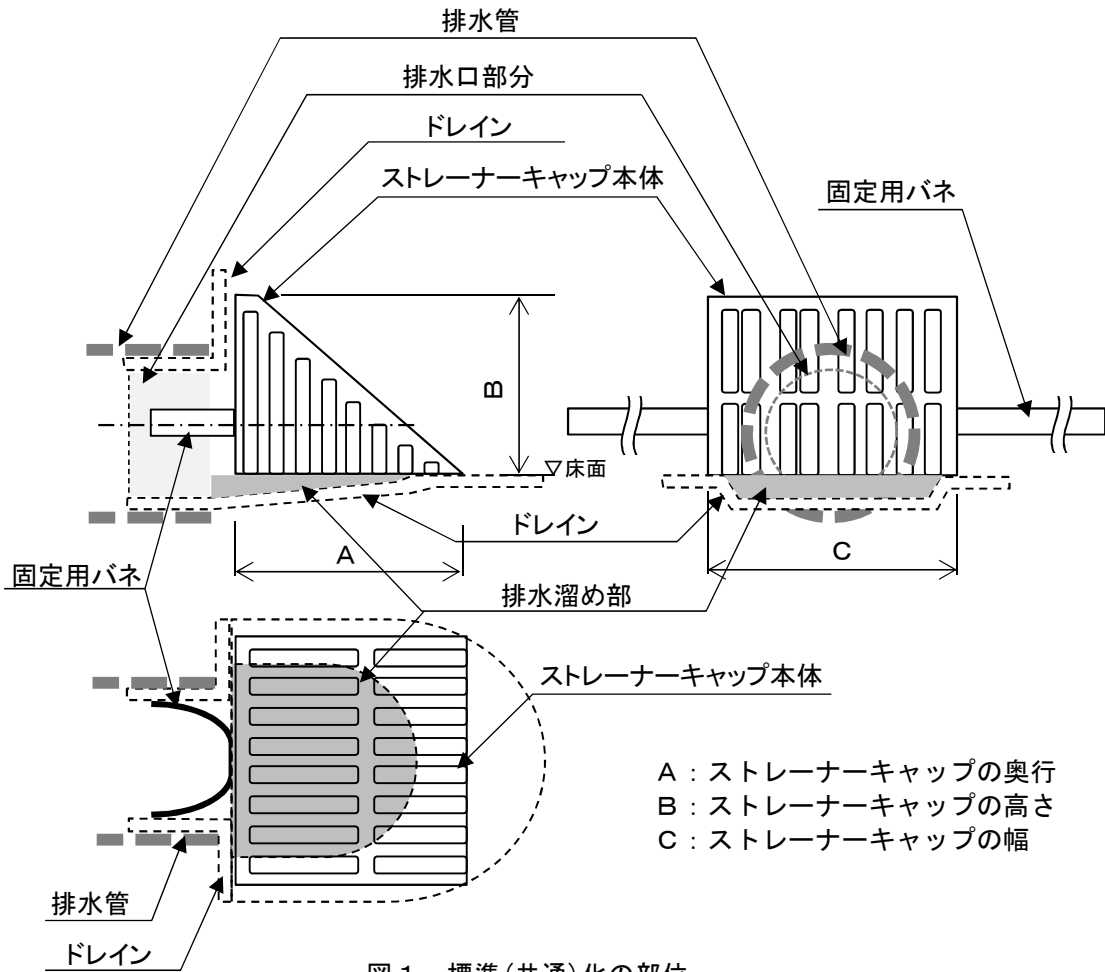


図1 - 標準(共通)化の部位

3. 寸法・形状

各部位の寸法を表1に示す。

表1 - 各部位の寸法

単位：mm

項目	①	②
A : ストレーナーキャップの奥行	$50 < A \leq 95$	> 95
B : ストレーナーキャップの高さ	> 60	
C : ストレーナーキャップの幅	> 60	> 100

4. 表示方法

部材・印刷物・電子媒体などに、長期使用対応部材であることを表示する。
または、“CJK”マークを表示する。

5. 特記事項

5.1 関連部材の具備すべき条件

- ・本基準書が対象とするストレーナーキャップは、排水溜め部のあるドレインに取り付けることを前提とした。
ここで言う排水溜め部とは、ストレーナーキャップを取り付けるドレイン等に設けられた凹みをいい、そのイメージを図2に示す。

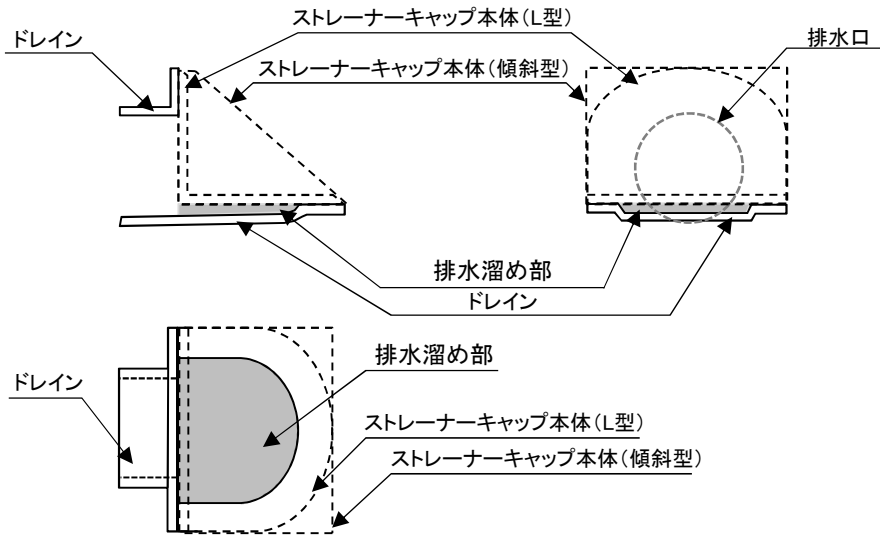


図2 - 排水溜め部のイメージ

- ・ドレインに備わる排水溜め部の寸法は、図3及び表2に示す。

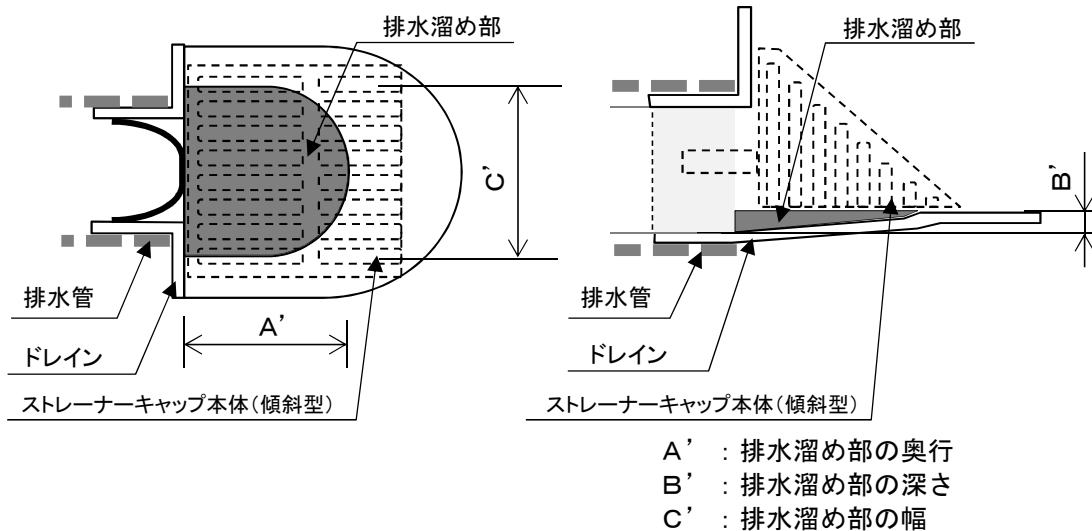


図3 - 排水溜め部の寸法

表2 - 排水溜め部の寸法

単位：mm

項目	①	②
A' : 排水溜め部の奥行	≤ 40	$40 < A' \leq 85$
B' : 排水溜め部の深さ		> 6
C' : 排水溜め部の幅	≤ 50	≤ 90

- ・ドレインに接続される排水管としてV U管50mmまたはV P管50mmを使用することを前提とする。
- ・排水口の方向は水平方向を前提とした。
- ・排水口内法底面は、バルコニー等の床面もしくは排水溝等の底面より上方に位置しない納まりとする。

5.2 ストレーナーキャップの形状

- ・ストレーナーキャップの形状は、平型・L型・傾斜型に大別されるが本基準書は、L型・傾斜型の形状に適用する。

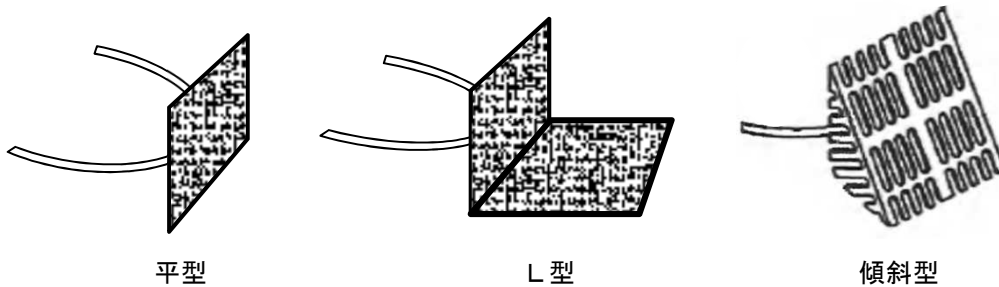


図4－ストレーナーキャップの形状分類

5.3 ストレーナーキャップの固定

- ・ストレーナーキャップの固定はバネによるものとする。
- ・ストレーナーキャップは排水口の開口を覆うように取付し、ずれないように配慮する。
- ・固定バネは、ストレーナーキャップが排水口を確実に覆う位置に取り付けられるように上下または角度の位置調整ができるものが望ましい。
- ・バネの形状・本数・固定位置はこれを定めないが、強風による飛散等が生じない程度の保持力を有するものとするのが望ましい。
- ・固定用バネが排水管に干渉する場合は、バネを適宜切断し取り付けることを前提とした。その場合のバネの残存寸法は、ストレーナーキャップががたつかない程度とする。

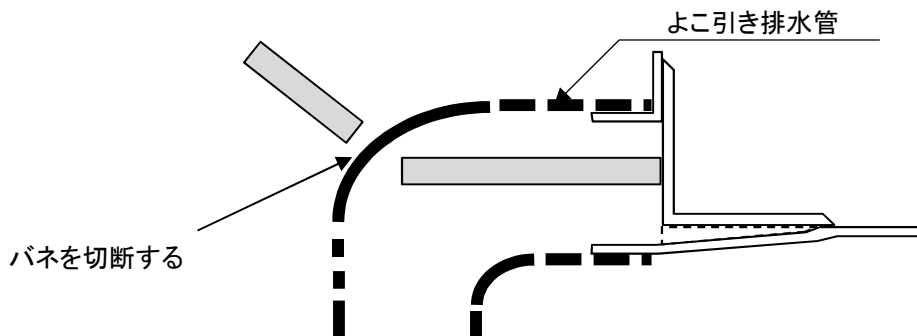


図5－固定バネの加工

5.4 ストレーナーキャップの選択

L型・傾斜型のストレーナーキャップは、平場と立ち上がり部分両方に掛かるため、両面の構成する角度は、90°を前提とし、現場の納まりを確認した上で形状の選択をする。

6. 解説

- ・ ストレーナーキャップの寸法は、排水口・排水溜め部にはまり込まない程度の寸法とし、排水溜め部の奥行によって寸法タイプ①、②を設定した。
その幅は、排水口の中心を通る水平線上において、排水口内面かつ排水溜め部端部からストレーナーキャップ外周の端空き寸法（ x 及び y 等）（ x' 及び y' 等）合計の最小値が10mm以上とした。
その高さは、排水口の中心を通る垂直線上において、VU管、VP管の内径の最大値56mm、排水溜め部の深さ6mmを最小値として、排水口内面からストレーナーキャップ外周の端空き寸法（ z 等）が10mm以上となる >60 mmとした。
その奥行は、排水溜め部端部からストレーナーキャップ外周の端空き寸法が10mm以上とした。

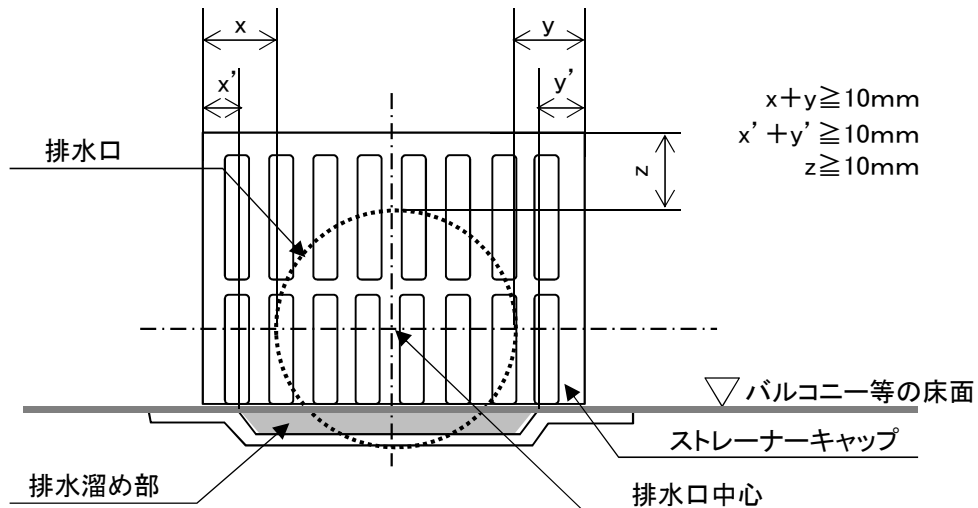


図6—ストレーナーキャップの寸法

- ・ ずれが生じ得ない配置（他部材と接する場合等）となる場合は、端空き寸法は不要とする。
- ・ ストレーナーキャップ下端は、バルコニー等の床面と接することとする。
- ・ 大きな排水溝の中にあるストレーナーキャップは、排水溜め部なしと同じとし、ストレーナーキャップの幅より大きな排水溝は、排水溜め部としない。

7. 共通事項

7.1 寸法について

寸法は基準値を示し、公差・許容差を表すものではない。

7.2 交換について

交換については、専門知識を有する者が行うことを推奨する。

注記) 専門知識を有する者とは：専門的知識、技術、経験を有する者である。